

『コンピュータが連れてきた子どもたち ネットの世界でいま何が起きているのか』

コンピュータ教育の先駆者は、変わりゆくネット社会の中で悩む
ネットの闇から、子供たちをどうやって守るのか

森山 和道(サイエンスライター)



戸塚 滝登 著
ISBN : 4-09-840098-7
定価 : 本体 1,500 円 + 税
小学館

脳の感受性が高く、可塑性に富んでい
る10歳未満のあいだは、コンピュータを
与えるべきではない。コンピュータ
教育のパイオニアの1人である著者はこ
のように主張する。インターネットはあく
までマシンとマシンを繋ぐものであり、
そのネットワーク環境の中では、子ども
たちの心と知覚は、皮膚感覚をそぎ落と
された状態に陥り、現実感を把握するこ
とが困難になるという。

できるだけ人工よりも自然、ビデオや
パソコンなどメディアを経由した情報より
も本物を触らせ体験させるべきだ、とい
うのが著者の主張だ。

いわれるまでもない。当たり前である。
インターネットが普及し始めたころ、

ネットを使って日本中、世界中と交流す
る、という研究教育が流行った。当時の
旗振り文句は、ネットを使うことで温かい
コミュニケーションができるというもの。
一見、パソコン相手に喜んでいるように
見えても、向こう側には人間がいて、感
情のやりとりがある、というわけだ。

そのとおり、ネットの向こう側には人が
いる。そしてネットには闇の面もあった。
人間自身が闇を持っているからだ。そし
て、ネットを使った教育もまた方向性を
変えつつある。人間は道具を作る。生
み出された道具もまた人間に影響を及ぼ
す。良きにつけ悪きにつけ。コン
ピュータ教育も方向性を模索し、ふらふ
らとさまよい続けるのだらう。

『ネット時代にどう変わる 日本のコンテンツビジネス』

ブロードバンド時代のコンテンツビジネスの現在と今後
各メディアをマスコミ論ではなくビジネス面から分析

山川 健(ジャーナリスト)

技術先行のインターネットの世界では
常に“発明が必要の母”である。まず新
しい仕組みができて、それを効果的に利
用する方法、サービスが後から登場す
る。今、ブロードバンド化の急拡大を受
け、高速大容量通信を活用したコンテン
ツビジネスが金脈として注目され始めた。

こうした現状を背景に本書は、テレビ、
アニメ、ゲームソフト、音楽、新聞、出版
の各ジャンルの業界動向を詳細に分析
し、今後の展望を記している。中でも従
来、マスコミ論として焦点が当てられるこ
とがほとんどだった放送、新聞、出版に
関しても、ビジネスとしての側面からア
プローチしている点が興味深い。

筆者は元新聞記者。冷静な視点から

の批評は極めて的確だ。放送局にM&A
を仕掛けたライブドアと楽天を「独創的
な技術はゼロに近い」といい「不相应の
資金調達を、資本市場からしてしまうの
は『あざとい』『カネの力だけでコンテン
ツビジネスを成しとげようとする試み』な
どと手厳しい。ネットベンチャーによる
市民参加型のネット新聞についても、既
存ジャーナリズムの力は侮りがたい、と
して「個人の草の根記者が、なまかな
ことで太刀打ちできることではない」と、
ビジネスの可能性を否定する。

金脈に群がる玉石混交の新興企業と、
新たな対応を求められる既存のメディア。
本書は、今後の日本のコンテンツビジネ
スを考えるうえでの羅針盤ともいえる。



猪熊 建夫 著
ISBN : 4-7974-8310-5
定価 : 本体 1,600 円 + 税
新風舎

本でしか得られない知識がある。
今月の、お勧め、お役立ち、元気になる書籍。

『Joel on Software』

開発者と経営者はソフトウェア開発でどうあるべきか
人気ウェブサイトに掲載された記事が一冊の書籍に

大澤 文孝 (テクニカルライター/プログラマー)



ジョエル・スポルスキー 著
青木 靖 訳
ISBN: 4-274-06630-4
価格: 本体 2,800 円 + 税
オーム社

経営者は、どのようにすれば短期間で品質の良いソフトウェアを作れるのかを考え、方策をとる。しかしその方策が、開発者にとって良くない方向に動くことも多い。その原因は、見解の相違だ。

本書の内容をひとことでいうと、「商用ソフトウェア開発はどうあるべきか」が書かれたエッセイ集である。著者であるジョエルは、マイクロソフト社のエクセル開発にも携わった根っからの開発者であるため、基本的には開発者の立場で書かれている。しかし過度に開発者を擁護することなく、こんな開発者はダメだと批判する。というのは、ジョエルは Fog Creek Software の創業者でもあり、経営者の顔も持ち合わせているからだ。

本書は、立場によって得られるものが違うはずだ。開発者が読めば、特定の言語や手法に肩入れするのは無意味であり、スキルを高めるには何をしなければならぬのかを理解できると思われる。とくにこれからソフト会社に就職する学生にとっては、趣味の開発と商用の開発との違いを理解するのに役立つはずだ。

経営者やマネジャーなど管理する側の立場から読めば、開発者が効率的に動くにはどのような環境が必要なのか、そして、使いものならない開発者と優れた開発者との違いを見分ける方法がわかるはずだ。さらには、流行のテクニカルタームに踊らされることは無意味であり、本質は別のところにあると感じるに違いない。

『「みんなの意見」は案外正しい』

「Wisdom of Crowds」の日本語訳がついに刊行
Web 2.0 の原則の 1 つでもある「集団の知恵」とは

斉藤 彰男 (編集者、SE)

Web 2.0 に興味を持っている読者なら、「Wisdom of Crowds」(日本語では「集団の知恵」「群衆の英知」などと訳されている)という言葉を見たり聞いたりしたことがあるかもしれない。

この「Wisdom of Crowds」という言葉は、雑誌「ニューヨーカー」の金融ページ人気コラムニスト ジェームズ・スロウィッキーが書いた同名の書籍に端を発している。「適切な状況の下では、優れた個人よりも、集団の判断の方が賢い」というのがその意味するところであるが、内容についてはいくつかのブログで紹介された程度で、タイトルだけが先行し、翻訳が待ち望まれていた。

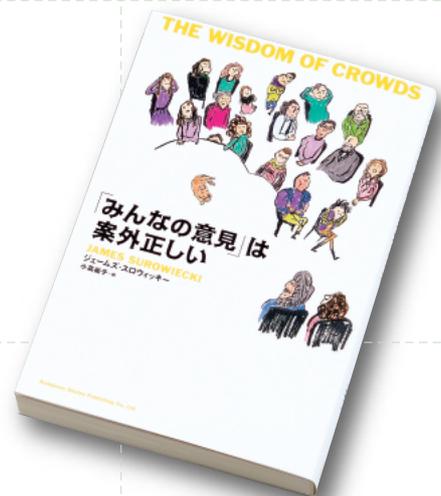
本書は、その待望の日本語訳である。

こなれた書名から、エッセイ集のようなものを想像するかもしれないが、内容は多くの社会科学分野における研究の成果を盛り込み、集団の知恵が発揮されるにはどのような条件が必要であるかを解説した、ハードな書籍である。

構成は 2 部に分かれていて、第 1 部は、いわば「理論編」。集団の知恵の応用分野として、認知、調整、強調という 3 つの種類の問題について解説している。

また第 2 部は「ケーススタディ」で、科学研究における協力と競争、企業における意思決定権限、バブルの発生といったテーマについて語られている。

片手間に読める本ではないが、ぜひ一読を勧めたい一冊である。



ジェームズ・スロウィッキー 著
小 尚子 訳
ISBN: 4-04-791506-8
定価: 本体 1,600 円 + 税
角川書店



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp